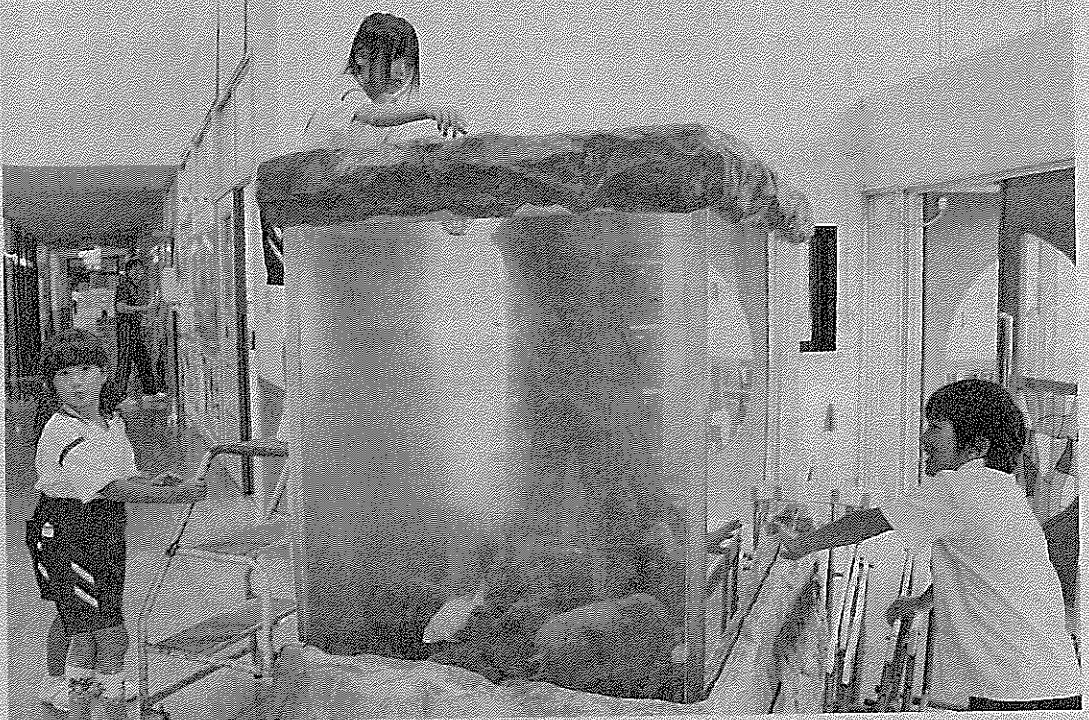


巨大水槽 はじける笑顔

おいしい大島小 漁師から魚、児童が餌やり



「オコちゃん」。おおい町大島小学校の児童用靴箱の前で、子どもたちがあいさつする海の魚たちがいる。地元漁師が海で取り、持ち込んだ巨大海水槽のタイやキンメダイ、オコゼなどで、毎年夏休みには保護者が水槽を大掃除。二学期も児童を元気づけ、魚が迎えている。

水槽は一九九七年の新校舎の完成時に設けられた。幅白五十五センチ、奥行き九十センチ、高さ九十センチの大きさで、海水を循環・ろ過させている。

設置当時、教頭を務めていた中川和博教育長(今も)によると「新校舎に何か漁村の学校らしいものを」と話が持ち上がり、すでに同様の水槽があった越前町城崎小学校を視察。海水は、淡水と違って管理が難しいと聞いたが、漁師が持ち込むマンアジなどを餌

巨大水槽の魚たちに餌をやる児童。おおい町大島小で

味津々に眺める児童の様子を見て、導入を決めた。漁業に携わる保護者の協力を得て飼育を開始。「タコを入れた翌朝、(食べられた)魚が骨になっていた」など試行錯誤を経つつも、学校の日常風景として定着した。現在は定置網にかかった小型の魚が、同校卒業生の漁師などから持ち込まれる。

魚の世話に歴代教頭の重要な仕事のひとつに。今年の夏は猛暑で水温管理が追いつかず魚が全滅してしまったが、九月には新たに八匹が児童らを迎えられた。

「餌やりするよ」と呼び掛けると、子どもたちが集合。代わる代わるイカや小エビを与え、魚が機敏に体を翻して餌に食い付く。「もっとう上がってこい」「あっ、隠れた」など、餌やりの時間はいつも歓声が上がる。三年の中谷聖君(八)は「毎日魚に合うのが楽しい」と話した。

(山谷 征裕)

施設ラジオ 高齢者楽しく

福井 専用端末で聴取、参加も

福井市のサービス付き高齢者住宅「ル・レーヴ」のホスピタルラジオがモデルになっている。

院内にある入院患者向けのホスピタルラジオがモデルになっている。

ホスピタルラジオについて研究している名古屋大学院准教授の小川明子さん(右)の取り組みに、施設を運営する社会福祉法人慶秀会が賛同。施設の敬老会を番組仕立てにして配信する形で実現した。専用端末は京都府のデザイン事務所が開発し、WiFi(ワイファイ)を経由して施設内の番組を配信する仕組みとなっている。

ラジオ番組を通じた地域の人たちとの交流や、部屋に閉じこもりがちなお年寄りを元気づけ、外に出てみようという気持ちになってもらうのが目的。英国の病

今回は入居者のうち五人の部屋に端末を配置し、敬老会での歌やクイズなどの

様子も配信。入居者の反応や受信状態などを確認した。

司会者の呼び掛けに、端末の「いいね」ボタンを押すことでリアルタイムで反応を返すこともでき、自室でラジオに耳を傾けた加納清親さん(左)は、司会者の呼び掛けにボタンを押して応えた。長岡幸子さん(右)は「ラジオ番組に出演した時を思い出した」と話し、施設内の会場にも足を運んでラジオの公開放送のような雰囲気も満喫していた。

同法人副理事長の永宮慶秀さん(左)は、「職員以外の人が入ることで刺激がある。お年寄りたちの笑顔が良かった」と振り返り、端末を活用し「部屋にいながら体感できるよつなイベントができた」と話した。

(清兼 千鶴)

施設内でラジオ番組を配信し、専用端末(手前)で入居者がラジオを楽しむ。福井市のル・レーヴの一角で



ふくい地域 北から南へ

反射材着用を訴え

福井の交通安全団体

秋の全国交通安全運動(二十日)に合わせ、福井市内の交通安全団体などは二十五日、市内四方所で早めのライト点灯や夜間の反射材着用を呼び掛けた。

福井市のJR福井駅周辺では開始式の後、三十人ほどが立ち、交通マナーの徹底を呼び掛けるちらしとストラップ型の反射材を通行人に手渡した。市の担当者は「国体期間中はおもてなしの気持ちを持って、いつも以上に交通マナーを意識して運転してほしい」と話した。また、これから日没が早くなると道路横断中の

歩行者の事故が増えるとして反射材の着用も呼び掛けた。

市交通安全対策協議会が主催し、福井、福井南両署や各交通安全団体など計百八十人が参加。ちらしと反射材は四方所で計一千五百七ツトを配布した。(坂本 碧)

大規模農業 農水省職員 小浜

小浜市加茂のメガファーム(大規模営農法人)「若狭の恵」で一カ月の農業研修を受けている農林水産省の生産局総務課国際室の原田達也さん(左)が二十七日、小浜市役所を訪れ、松崎晃治市長に研修の途中成

松崎晃治市長等に研修成果を伝える原田達也さん(左)と小浜市

来月全日本吹奏楽コンクール 成和中 福井 49年ぶり出場



福井市成和中学校の吹奏楽部が十月二十日に名古屋市内で開催される「全日本吹奏楽コンクール」に四十九年ぶりに出場する。基本を忠実に練習で県大会を勝ち抜いた。部員が二十六日、福井市役所を訪れ、西行茂副市長に抱負を語った。八十人の部員を代表し、

部長でアルトサクソフスの小林さくらさん(左)、トロンボーンの今井日菜さん(中)、フルートの鳥山沙音さん(右)、パーカッションの西川涼子さん(右)らが訪問した。全国大会は今年で六十六回目。同校は課題曲「虹色の未来へ」「ウインドオー